

活力源のよそ者・若者・ばか者

常盤茂樹



えるという意味から「維新祭」と名付けられたのであった。

維新祭のメイン行事は、大石田駅前で行なわれた「北の躍動ODORI」で、北村山地区三市一町のそれ

昨年夏に大石田町で画期的なイベントが行われた。大石田祭りの前夜祭をメインとした「維新祭」である。

従来の大石田祭りは歴史も長く、花笠踊りを初めてお祭りに取り入れた事から「元祖花笠」を拝命してきたし、花火大会は日本一の20号玉十連発の打ち上げを行ない、一日で町民の十倍にあたる十万人を集める優良イベントであった。

しかし、町民の間からは、お祭りの集客が単に花火によるもので、町民が進んで参加するお祭りになっていないとか、昼の時間に練り歩く花笠パレードは見物客も少なく、何より踊り手も楽しそうに踊っていないとの声も、何年も前から数多くあった。

そこで、一昨年の祭り反省会で「大石田祭りを十倍楽しむ会」という組織を立ちあげ、どうすれば町民が参加しなくなるお祭りになるかを考えてもらうことになったのである。私も含め十五人ほどのお祭りが自ら申し込んで参加した。

そして、第一回目の会議の時である。この会の座長を選出することになり、みんなから推薦された落合氏がこう言った。

「私が引き受けるからには、言うだけの会には

しない。言ったことを自分たちで実行する会にする。それで皆さんがよければ引き受けます」

満場の拍手で落合氏を会長に選出してから、会の趣旨が変わった。考えるための集まりではなく、自分たちで企画したことを実行しなければならぬ会になったのである。

これまでも行政は、数多くの機関を組織させて諮問し答申を受けてきたけれど、その内容を答申した本人たちが責任を持って実行するどころか、実行されたかどうかをチェックすることすらなかったのではないかと。

落合氏はそんな大石田の慣例では、お祭りすらいつまでたっても変わらないと考えて、「オレたちは風呂屋の湯じゃない。ゆえに（）だけじゃないんだ」と、常に会員に言っていて聞かせたのであった。

それからの集まりは「お祭りとは、その地に暮らす人たちが、その日を心待ちにし、自分たちが楽しむ行事だ」という根本に返って企画し、そして自ら実現させるといふ強い責任意識が生まれていったのである。

従来の人任せ、行政任せではないこのお祭りには、大石田祭りを、そして町民意識を変

それで盛り上がってきた祭りの競演が行なわれた。行政の垣根を越えて祭りで地域が一つになったのも画期的なことであった。

そして、この踊りの競演に大石田町から参加した創作花笠踊りのグループは、若い人たちが踊りたくなる花笠をテーマに、音楽を力強く編曲し、振りや衣装も二十代を中心とした会員たちが自ら創り出したのであった。

この祭りを成功させるためにご協力いただいた他市の祭りの先駆者たちから、新しい事例を成し遂げられるのは「よそ者・若者・ばか者」だと何度も聞いた。確かに会員は最終的には百五十名を超えたが、みんなこの三つに当てはまっていたと思う。ちなみに落合会長も東京やアメリカで会社経営をして四十年ぶりにリターンしてきた人である。

古い土地柄ではとかく煙たがれる「よそ者・若者・ばか者」にこそ、その地に活力を与え、原動力が眠っているのではないかと。当てはまると思った方は臆せず地域活動に参加してみたい。

(町議会議員・大石田町在住)